



NO. 108

カマキリモドキ(Eumantispa harmandi Navas)およびヒメカマキリモドキ(Mantispa japonica MacLachlan)の観察

高田 兼太

カマキリモドキ (Eumantispa harmandi Navas) およびヒメカマキリモドキ (Mantispa japonica MacLachlan) は、脈翅目カマキリモドキ科に属し、世界に15属170種、日本では3属5種が知られている。

カマキリモドキ科の成虫は、細長い前胸とそれに付属した捕脚があり、これらの構造および機能はカマキリとよく似ている。捕脚が淡褐色で前胸が黄色であるのがカマキリモドキで、捕脚が黄色で前胸が暗褐色なのがヒメカマキリモドキであるので、識別は容易である。

カマキリモドキ科の幼虫は、寄生生活を営むことが知られている。寄主は、カマキリモドキにおいては未知であるが、ヒメカマキリモドキにおいてはエドコマチグモの卵囊に寄生することが知られ、さらに外国ではドクグモの一種の卵囊やスズメバチ科の巣に寄生することが知られている。

カマキリモドキ科の幼虫は過変態することが知られている。一齢幼虫は、Campodeiform=長跳虫型(ナガトビムシに類似している形状)という移動に適した形態であるが、寄主からある程度栄養を摂取すると脱皮してScarabeiform=コガネムシ型となる。蛹は、クモの卵囊やハチの巣・土中からまゆに包まれた状態で発見されている。

筆者はカマキリモドキおよびヒメカマキリモドキを飼育観察する機会を得て、若干の知見を得ることができたのでここに紹介したいと思う。

なお、本文に先立ち、採集から飼育・観察に至る中で、貴重な資料やご意見をいただいた江崎功二郎氏にお礼申し上げます。

《飼育・観察記録》

1993年8～9月石川郡河内村内尾に設置したライトトラップで採集したカマキリモドキ8頭およびヒメカマキリモドキ14頭の成虫を直径、高さ共に100mmぐらいのロイドカップに厚紙で仕切りをして2室に分け、1頭ずつ飼育した。

カマキリモドキおよびヒメカマキリモドキの成虫に双翅目および鱗翅目の小昆虫やクモ類を与え、捕食の観察を行った。共に獲物の肢を噛み落としてから捕食したが、弱った個体については噛み落とさずに捕食していたように記憶している。

また、カマキリモドキが肛門に付着した排泄物の除去をするような行動が見られた。この行動はヒメカマキリモドキには見られなかった。

表紙デザイン：小幡 英典

飼育した個体のうち数頭においては、産卵を観察することができた。産卵箇所は、壁面に限定されるが、カマキリモドキの自動車のドアへの産卵、およびヒメカマキリモドキのロイドカップの曲面の産卵は興味深かった。

産卵は、江崎（1947）の記述にあるように、雌が腹部を右から左へ、また左から右へと動かしながら横列に産卵し、次第に前へ並べて行き、腹端の位置があまり近くて産みにくくなるとさらに前進して、また産卵を開始した。1匹あたりの産卵数はカマキリモドキでは315個～910個、ヒメカマキリモドキでは853個であった。



車のドアに産卵中のカマキリモドキ

《参考文献》

沼田英治, 1983. カマキリモドキの捕食行動. インセクタリウム, 20 : 155

江崎悌三, 1947. カマキリモドキの観察. 採集と飼育, 9 : 25-33, 41

DONALD J.B. et al., 1981. ORDER NEUROPTERA. An Introduction to The study of Insects
Fifth edition : 351-352

《たかだ けんた 〒920-11 金沢市若松町警備野 3 番地 山本和男方》

昆虫用語の基礎知識《過変態》

江崎 功 二 郎

「過変態」という用語はあまり聞き慣れないが、よく調べてみるとこの変態様式を用いている昆虫が意外に多い。「過変態」とは、オオハナノミ科やツチハンミョウ科などの鞘翅目、カギバラバチ科やアリヤドリコバチ科などの膜翅目やカマキリモドキ科の脈翅目の寄生性昆虫（ツチハンミョウ科の幼虫は、花粉食であるので寄生性ではないが過変態を行う）に見られるすこし奇妙な変態様式である。活発に移動して寄主への媒体者を搜索する1齢幼虫（三爪幼虫＝長跳虫型幼虫, Fig. 1）と寄主に定着して栄養を吸収して丸々と成長する2齢以降の幼虫（コガネムシ型幼虫, Fig. 2）の形態が異なるため、1度余計に変態する意味をもって「過変態」と呼ばれている。

オオハナノミ属の諸種は、ツチバチ科やスズメバチ亜科などの狩蜂幼虫の寄生者である。寄主とは全くかけ離れた場所に、母虫が産下した卵からフ化した1齢幼虫は、寄主の土中や巢中にある幼虫に到達するために、活発に移動して花上などで待機し、訪花性のあらゆる有翅昆虫にとりつき、便乗によって運ばれ、偶然にそれが寄主となる狩蜂であるときにだけ、寄生に成功する。寄生に成功した1齢幼虫は寄主から栄養を吸収し、脱皮して形態の違うコガネムシ型幼虫になる。従って1齢幼虫（三爪幼虫, Fig. 1）は、媒体者にとりつくための鋭い大顎や活発に移動するための発達した肢などの形態的特徴を持ち、2齢以降の幼虫（コガネムシ型幼虫, Fig. 2）は、肥大成長に適したイモムシ型となる。

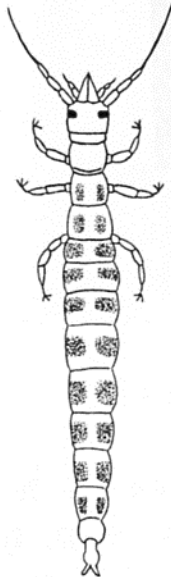


Fig.1 カマキリモドキの1齢幼虫



Fig.2 カマキリモドキの老熟幼虫

Brauer, F. (1869)から引用

オオツチハンミョウの産卵数は、4000~6000個であり陸上動物の中で最も多いと言われている。これは寄主へ到達する割合が極めて低いことを意味する。

《参考文献》

Brauer, F., 1869. Beschreibung der Verwandlungsgeschichte der Mantispa styriaca Poda und Betrachtungen über die sogenannte Hypermetamorphose Fabre's, Verh. k.-k. Zool.-bot. Gesell, Wien, 19:831-840, Taf. 12.

江崎梯三, 1947. カマキリモドキの観察, 採集と飼育 9:25-33, 41.

岩田久二雄, 1971. 本能の生態学. pp.503. サイエнтиスト社, 東京.

梅谷献二, 1974. カブトムシってこんなもの. pp.267. 誠文堂新光社, 東京.

《えさき こうじろう 〒920-23 河内村内尾口76-2》

奥能登の甲虫リスト

八神徳彦

能登の穴水に単身赴任して2年。仕事柄、山に出る事が多く、日常的に虫達と出会う事も多い。松井正人氏にそそのかされた事もあり、1人暮らしのアパートで虫をルーペで観察する夜が続いた。

能登地方、特に奥能登ではほとんど記録の蓄積が無いとの事で、これを機会に私の標本箱の中のリストを紹介する。採集、標本の管理は共に筆者である。

ハムシ科とオトシブミ科の同定では高羽正治氏に、その他の同定では井村正行氏にたいへんお世話になった。深謝申し上げたい。

なお、筆者は2ケ年の年期があけ、松井氏に惜しまれつつ、めでたく鶴来町の家族の元に戻ることができた。これからは鶴来町を含めた白山周辺の虫達と付き合い始めるが、1人暮らしと違って、夜はなかなか都合がつかないだろう。

《ハンミョウ科》

ニワハンミョウ	柳田村当目	1992年	5月12日	1頭
ニワハンミョウ	穴水町河内	1992年	5月16日	1頭
ハンミョウ	穴水町大町	1993年	10月	1頭

《オサムシ科》

マイマイカブリ	穴水町大町	1992年	7月19日	1頭
マヤサンオサムシ	穴水町大町	1992年	7月19日	11頭
マヤサンオサムシ	柳田村北河内	1992年	5月16日	2頭
エゾカタビロオサムシ	門前町	1992年	7月16日	1頭

エゾカタビロオサムシ	柳田村柳田	1992年 6月26日	1頭
アキタクロナガオサムシ	能都町鮭尾	1993年10月	2頭
《クワガタムシ科》			
ヒラタクワガタ	穴水町七海	1993年 9月 1日	1♀
コクワガタ	穴水町七海	1993年 7月20日	1♂
スジクワガタ	穴水町別所	1992年 6月19日	1♂
ノギリクワガタ	穴水町七海	1993年 7月25日	1♂
ミヤマクワガタ	穴水町七海	1993年 7月25日	1♂
《コガネムシ科》			
センチコガネ	門前町貝吹	1992年 6月19日	1頭
シロスジコガネ	門前町皆月	1988年 9月	1♂
クロハナムグリ	門前町貝吹	1992年 6月19日	2頭
《タマムシ科》			
ウバタマムシ	門前町道下	1993年 7月30日	2頭
《コメツキムシ科》			
ベニコメツキ	柳田村北河内	1992年 5月16日	1頭
《カミキリムシ科》			
ツシمامナクボカミキリ	穴水町甲	1993年 8月15日	1♂
サビカミキリ	穴水町大町	1992年 7月19日	1♀
チャイロヒメハナカミキリ	柳田村北河内	1992年 5月16日	1♂1♀
チャイロヒメハナカミキリ	門前町貝吹	1992年 6月14日	1♂3♀
セスジヒメハナカミキリ	柳田村北河内	1992年 5月16日	2♂
セスジヒメハナカミキリ	門前町貝吹	1992年 6月14日	1♀
ミワヒメハナカミキリ	門前町貝吹	1992年 6月14日	1♀
ミワヒメハナカミキリ	穴水町天神谷	1992年 5月16日	1♂
ツヤケシハナカミキリ	門前町貝吹	1992年 6月19日	1♂1♀
ツヤケシハナカミキリ	柳田村北河内	1992年 5月16日	1♂2♀
ヨスジハナカミキリ	穴水町七海	1993年 7月12日	1♂1♀
ヨスジハナカミキリ	穴水町伊久留	1992年 6月18日	1♀
アカハナカミキリ	穴水町七海	1993年 8月15日	1♂
ミヤマカミキリ	穴水町大町	1993年 7月	1♀
アオスジカミキリ	穴水町大町	1993年 8月12日	1♀

アオスジカミキリ	志賀町西山	1993年	7月	3日	1♂
ヨツボシカミキリ	穴水町大町	1993年	7月	7日	1頭
ミドリカミキリ	柳田村北河内	1992年	5月	16日	1♂
ヒメスギカミキリ	穴水町七海	1992年	5月	12日	1♀
ヒメスギカミキリ	柳田村百万脇	1992年	4月	27日	2♂1♀
シラケトラカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	2頭
エグリトラカミキリ	柳田村北河内	1992年	5月	16日	3頭
エグリトラカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	3頭
トウキョウトラカミキリ	門前町貝吹	1992年	4月	29日	1頭
ゴマフカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	1♀
ナガゴマフカミキリ	門前町黒崎	1993年	7月	20日	1♀
アトジロサビカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	1♂
アトモンサビカミキリ	柳田村当目	1992年	5月	12日	1♂
アトモンサビカミキリ	穴水町大町	1992年	5月	12日	1♀
アトモンサビカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	1♀
マヤサンコブヤハズカミキリ	柳田村北河内	1992年	6月	17日	1♀
マヤサンコブヤハズカミキリ	穴水町七海	1993年	7月	12日	1♀
ニセビロウドカミキリ	穴水町越渡	1993年	8月	3日	1♀
キボシカミキリ	穴水町大町	1992年	7月	3日	1♀
シロスジカミキリ	穴水町大町	1993年	7月	7日	1♂
ニセシラホシカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	1♀
シラホシカミキリ	門前町貝吹	1992年	6月	19日	2♂2♀

《ハムシ科》

スゲハムシ	穴水町大町	1992年	5月	13日	2頭
アカガネサルハムシ	穴水町川尻	1992年	6月	18日	1頭
オオルリハムシ	穴水町二子山	1993年	6月	4日	2頭
オオルリハムシ	門前町広岡	1992年	7月	10日	1頭
アオカメノコハムシ	門前町和田	1993年	6月	16日	1頭
セモンジンガサハムシ	門前町道下	1993年	7月	20日	1頭
エリバケブカハムシ	門前町鬼屋	1992年	7月	16日	1頭

《オトシブミ科》

エゴツルクビオトシブミ	門前町鬼屋	1992年	7月	16日	1♂1♀
-------------	-------	-------	----	-----	------

《やがみ とくひこ 〒920-21 鶴来町八幡り92-2》

兼六園のギフチョウ

松井正人

かつて兼六園でギフチョウがたくさん採れたとの話を、年配の同好者から何度か聞いた事がある。最初に聞いた時（1970年代前半）には興味を覚えたが、その頃の兼六園にギフチョウはいなかった。

市街地に取り囲まれた兼六園、おそらくここで発生したものではなく、近辺の発生地から飛来したものが偶然採集され、「たくさん」と言うのは、時が経つにつれ尾ヒレが付いたものと思っていた。金沢は名にし負うギフチョウの多産地で、時期ともなれば市街地を取り巻く低山地には乱舞が見られ、市街地でも時々目撃されたり、実家（金沢市三口新）のヒメカンアオイに産卵されたこともあった。兼六園のギフチョウもおそらくはこの類と考えていた。

最近、高羽正治氏の好意により、石川県昆虫採集報告（中谷和夫, 1960）なる文献を見る機会を得た。何度か聞かされた「兼六園のギフチョウ」の出所はこの文献のようで、これには以下の記録があり、更に「多数いた」とも記されている。

1945年4月16日 兼六公園 2頭採集 中谷和夫

これによれば、1945年の兼六園には多数のギフチョウがいた事になる。先の考えでは「多数」はありえない。そうなるとかつての兼六園にはギフチョウが分布していたと考えねばならない。ギフチョウの分布には食草のカンアオイ類が不可欠で、この辺りの自生はヒメカンアオイ(*Heterotropa takaoi*)しか考えられない。そこで、兼六園にカンアオイが有るものか、また過去に有ったものか調べてみた。

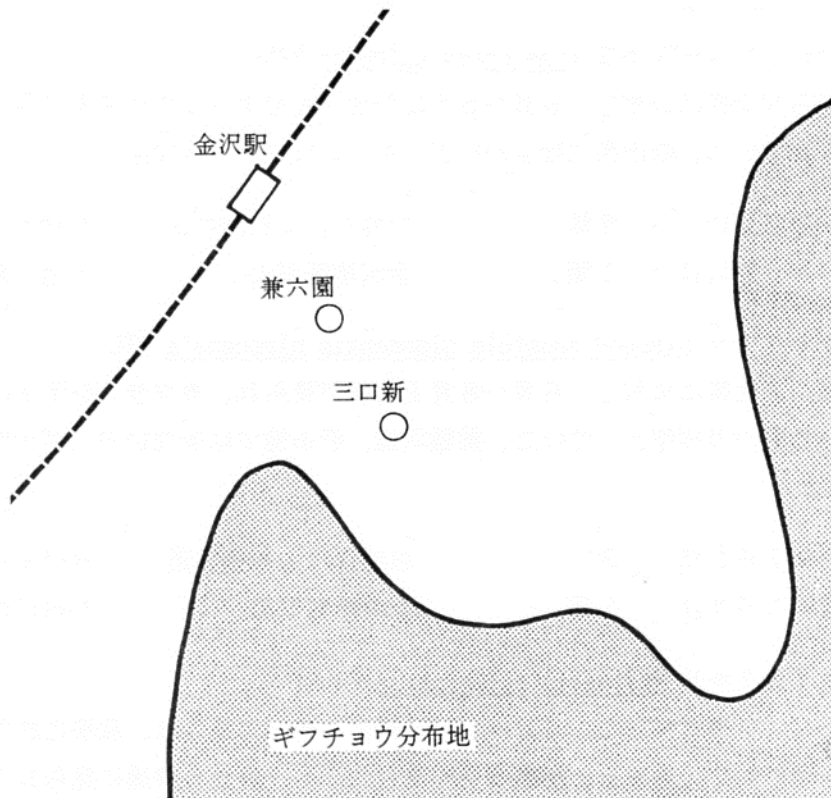
兼六園管理事務所に問い合わせたところ、カンアオイ類はあるが自生かどうかは分からないとの返事だった。そこで実物を見せてもらったところ、各地の民家や寺社に見られるソノウサイシン(*Heterotropa fauriei* ver. *serpens*)で、自生のものではなかった。管理事務所の中堀宏昭氏によれば、園内に植物（木、草、苔等）を移植した際に、カンアオイ類の種や株がくっついてきた可能性は十分に考えられるとの事だった。しかし、現状維持が庭園の宿命なだけに、新しく芽生えてきたものは総て除草の対象になる事、セールスポイントの草木は大切にされるが、このカンアオイを含めたそれ以外はやはり除草の対象になる事もうかがった。そうすれば、これまでも何度かカンアオイ類が持ち込まれ、消えていった（除草された）事は十分考えられ、ある時期はかなりの面積に成育していた事も考えられる。しかし、過去の事は分からないとの事だった。

金沢城址は、かつて兼六園とは地続きだった。ここは1949年から金沢大学が管理し、翌1950年には植物目録が作られている。その後何度も調査が行われ城址の植生はほぼ100%調べ尽くされていると思われるが、これらよるとカンアオイ類は無い。城址にかつての植

生がそのまま残されているとは思えないが、城址も兼六園も等しく人の手が加わっていたとすれば、5年のズレはあるものの、1945年の兼六園にカンアオイ類が自生していたとは考えにくい。

以上の事から多少乱暴に兼六園のギフチョウについて考えると、兼六園に自生のカンアオイ類は無かったが、庭園植物を移植した際に度々カンアオイ類の種や株がくっついてきて、園内に入り込んだ。ある時期はかなりの面積になる事もあったが、除草により長期の成育は許されなかった。カンアオイ類がかなり繁茂している時、偶然に近隣の産地から飛来した雌が産卵し、一時的な発生がみられた。この発生は、数年続いたと考えられるが、カンアオイ類の減少と共にある時点で消えてしまった。こんなストーリーが浮かんでくるが、読者諸兄はいかにお考えになるであろうか。

最後に、年度末の忙しい折にもかかわらず快く園内の植物を調べていただき、更には園内を案内していただいた兼六園管理事務所の中堀宏昭氏、いつもたいへんお世話になっている金沢大学理学部の木下栄一郎氏、石川むしの会の高羽正治氏に深謝申し上げます。



《参考文献》

中谷和夫, 1960. 石川県昆虫採集報告. 三重生物, (10) : 1-6.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東 8 7 1 - 1 5》

石川県のカミキリムシ科 (その15)

井村正行

243. セミスジニセリソゴカミキリ Eumecocera trivittata BREUNING

白山のブナ帯に分布し、6月～7月にブナの立枯木やミズナラの切株等で採集されている。少ない。

1980年6月22日	1♂1♀	白峰村白山大杉谷	井村正行
1984年6月24日	1♂	白峰村白山釈迦林道	井村正行

244. ヒゲナガシラホシカミキリ Eumecocera argyrosticta BATES

白山のブナ帯に分布し、6月～8月に前種と同じくブナの立枯木やミズナラの切株、燈火などで採集されている。少ない。

1980年6月24日	1♀	白峰村白山大杉谷	井村正行
1984年6月30日	1♂	白峰村白山釈迦林道	野中 勝

245. クロニセリソゴカミキリ Eumecocera unicolor KANO

低山からブナ帯に分布し、5月～8月にシナノキやカツラの生葉を後食しているものが確認されている。低山帯には少ないが、白山のブナ帯では普通に見られる。

1979年6月10日	多数	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1984年6月14日	1頭	金沢市医王山	入場 登

246. カツラカミキリ Niponostenostola niponensis niponensis PIC

低山からブナ帯に分布し、6月～8月上旬まで見られ、カツラ、シナノキの生葉を後食しているものが確認されている。前種同様、低山地では少ないが、ブナ帯では普通に見られる。

1980年7月6日	多数	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1992年6月9日	1頭	金沢市医王山	井村正行

247. キクスイカミキリ Phytoecia rufiventris GAUTIER

平地からブナ帯に分布し、4月～7月に標高を追って見られ、栽培されているキク類やヨモギ類の新芽に集まる。加害も多く見られるが、成虫も普通に見られる。確認したホストにはキク類、ヨモギ類がある。

1980年5月22日	1♂1♀	白峰村白山大杉谷	井村正行
1985年4月28日	1♂1♀	金沢市諸江	井村正行

248. ヨツキボシカミキリ Epiglenea comes BATES

平地からブナ帯に分布し、5月～7月頃にヌルデの立枯や伐採木等で普通に見られる。確認したホストにはヌルデがある。

1979年5月30日	2♂	金沢市駒埴	井村正行
1980年5月27日	1♀	金沢市倉ヶ岳	井村正行

249. ヘリグロリンゴカミキリ Nupserha marginella BATES

平地から低山帯に分布し、次種とは一部の地域で混棲しているが、広く見れば標高による棲み分けをしている。6月～8月に草地や山道沿いの草の上に止まっているものや、その周辺を飛翔している個体が見られる。特にアザミ類を好むように思われる。普通。

1981年7月10日	1♀	金沢市大平沢	井村正行
1992年7月21日	8頭	金沢市医王山	井村正行

250. ムナグロリンゴカミキリ Nupserha sericans BATES

ブナ帯から亜高山帯に分布し、6月～8月に草原の葉上や道沿いの草の上に止まっているものや、その周辺を飛翔中の個体が見られる。普通種。

1979年6月24日	1♂	白峰村白山釈迦林道	井村正行
1979年7月8日	1♂	白峰村白山釈迦林道	井村正行

251. ヒメリンゴカミキリ Oberea hebescens BATES

平地からブナ帯まで県内全域に広く分布し、5月～8月に林縁を飛翔中のものや、クロモジの生葉を後食しているものが観察されている。低山帯に見られるクロモジの1～2年枝には本種幼虫による加害が多く見られ、平地のタブなどには後食痕も見られる。普通種。確認したホストにはクロモジがある。

1979年6月17日	1♂1♀	白峰村白山大杉田に	井村正行
1992年7月21日	3♂1♀	金沢市医王山	井村正行

252. リンゴカミキリ Oberea japonica THUNBERG

平地から低山に分布し、6月～7月にサクラ類の生葉を後食しているものや、飛翔中のものが観察されている。やや少ない。確認したホストには、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ等のサクラ類があり、これらの加害枝から羽脱させている。

1979年7月11日	1♀	金沢市宝	野中 勝
1985年5月11日	1♀	金沢市俵	井村正行

253. ソボリンゴカミキリ Oberea sobosana OHBAYASHI

低山帯からブナ帯に分布し、これまで4例の記録しかない。ツツジ類の生葉を後食しているものや付近を飛んでいるもの、またツツジ類のスウィーピングでも採集されている。ツツジ類の主脈には意外とたくさんの食痕が見られ、砂御前山ではシャクナゲに食痕らしきものが多数見られたが、後食している個体は発見できなかった。金沢市卯辰山でも記録されていたが、前種リンゴカミキリの間違いだった。

1986年7月15日	1♂	金沢市国見山	井村正行
1987年6月14日	1頭	金沢市倉ヶ岳	入場 登
1992年6月21日	1頭	白峰村白峰	入場 登
1993年8月5日	1♂	白峰村砂御前山	井村正行

254. ニセリンゴカミキリ Oberea mixta BATES

筆者は記録を確認することができなかったが、堀克重(1960)によれば白山のブナ帯で記録されている。県下全域の平地から低山にかけ、ホストとなるスイカズラが多く見られるので、再確認が待たれる。

255. ホソキリンゴカミキリ Oberea inclusa BATES

低山からブナ帯において林縁を飛翔する個体が、6~7月に観察されている。やや少ない。

1980年7月5日	1頭	白峰村白山釈迦林道	入場 登
1992年7月21日	1♂	金沢市医王山	井村正行

256. ホソリンゴカミキリ Oberea nigriventris BATES

3例の記録しかない稀な種。白山山麓にはホストとなるイケマの群落が見られるので、今後の追加記録が待たれる。

1980年7月13日	1頭	鶴来町獅子吼高原	吉川 宏
1980年7月5日	1頭	白峰村白山別当出合	入場 登

やっと、石川県のカミキリムシ科を一通りリストアップすることができた。思えば1985年から足掛け10年の長帳場になってしまい、この間に県内外のカミキリ界では新知見が多々あり、これまでに発表したリストの一部を修正する必要が出てきた。そこで今回は、今までのリストの訂正、追加を行い、石川県のカミキリムシ科を締めくくりたい。

堀 克重, 1960. The Insect Fauna of Mt. Hakusan and its Ecological Distribution,
Ecological studies of Hakusan Quasi-National Park. :75-97.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

オオヒカゲの食草を追加

松 井 正 人

鹿島町石動山にて、キンキカサスゲを食するオオヒカゲの幼虫を確認したので報告する。

1993年5月8日 鹿島町石動山 キンキカサスゲよりオオヒカゲ4幼確認

オオヒカゲは金沢の森本地区以北には普通に見られ、これまでカサスゲ、ゴウソ、ジュズスゲが食草として知られている(松井,1983)。

スゲ類の同定は大変難しいので、前回同様今回も金沢大学植物園の木下栄一郎氏にお願いした。ここに改めて謝意を表したい。

《参考文献》

松井正人,1983. オオヒカゲの食草の記録. 翔, (39): 2-3

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

酒を飲みながら思いめぐらす事

源 五 郎

五郎は酒が好きだ。夏の最中でも熱燗を飲んでいる。昔は可愛らしく小さなおちよこで飲んでしたが、フケるに従ってだんだん器が大きくなり、いつしか湯飲みで飲むようになっていた。

湯飲みで飲む日々が続いたある日、愛妻が大きなくい飲みを買ってきた。「茶碗酒と言うのは人聞きが悪い」と、常々考え探していたらしい。渡してくれる時に目がいたずらっぽく輝いていた。ぐい飲みを見て驚いた。底にアマエビがいる。絵では無く実にリアルな立体が、ぐい飲みの底から身体を持ち上げている。酒を注ぐと泳ぎだしそうで、楽しいぐい飲みだ。

話を聞けば、他にカニやヒラメもあったらしく、作者はどうも水棲生物をぐい飲みの底にあしらっているらしい。

そこで考えた。ヤゴ、タガメ、タイコウチ、どうもパツとしない。そうだ、ゲンゴロウは良さそうだ。それも水面で呼吸しようとお尻を持ち上げた格好が良い。酒を注ぐ時は、さもゲンゴロウが呼吸してるかのように、ちょうどお尻の辺りまでとする。注ぐのに熟練を要するが、こうするとぐい飲みを口に近付けた時、水面がゆれる。そしてゲンゴロウのお尻のところに水紋が広がる。「まるで本物のようだ」と錯覚したところで一気に飲み干す。これはおもしろい。さらに熱燗が入ると、シマゲンゴロウとかスジゲンゴロウの綺麗どころが浮かび上がるのもおもしろい。

わらじを履いた井村氏、子供同伴割引旅券で小松空港から飛び立った。家族をホテルにほっぽって、一人レンタカーを飛ばす頭の中は、ゲンゴロウで一杯だった。ところがコガタノ、トビイロとかかるがフチドリ、ヒメフチドリは全くかからない。フチドリが頭の中をグルグルと駆け回り、カミキリどころでは無くなった。結局、フチドリ、ヒメフチドリは採れず、ベニボシは捜す暇さえなかった。

ついに始まった市町村集め井沢國雄こと大島國雄氏、昼寝も忘れてギフを採りまくっている。昨日辰口、今日小松、明日は河内か吉野谷と、まるで市町村集めでもやっているかのようである。

四駆軍団、白峰を攻める神戸の中川氏を援軍に迎え、久々の山ギフに燃える松井氏、まだまだ採り足りない指田氏、一度はネットに入りたい江口氏と、それぞれの家族は四駆

三台に分乗し、白峰に向かった。現地は既に「なにわ」勢や「豊橋」勢に攻撃されており、出遅れぎみの「石川」勢だったが、敵の姿は何処にも無かった。唯一「なにわ」勢が物見と接触したが、打ち漏らしてしまった。

東北三日間はゴロリ野宿旅総予算五万円で、一家四人の東北旅行をやつてのけた男がいる。金沢をふりだしに、小国、米沢、西会津と回り、走行距離は約千キロ。しかも、毎晩二人が大酒を食らい、米沢牛まで食べてしまったと言わからずごい。更にピカピカのギフを含めお土産多数もついたというからお土産多し。それもこれもRVRを巧みに操る名バートナーのおかげ。

山菜パーティーは大盛況五月三日、晴。「新緑まばゆい溪谷で、パーティーを開きましょう」と、良い子の子供達を連れとお父さん、お母さんが河内村内尾に集まった。

午前中に山菜を集め、午後はテンプラにして、一杯やるとの趣向に十二家族三十二人が参加。イワナの差し入れもあり、ワイワイガヤガヤと賑やかな一時が過ぎていった。

こだわり虫屋の採集哲学
《其の一 野中 勝》

採集とは勞せずして完品を得る事を言う。一日がかりで、バカメツ！一つ採った、もつと採れ！二つ採った、一つよこせ！三つ採った、全部よこせ、また採れる！

採集とは、いかに採り子を養成し手懐けるかである。バカな採り子程使い易い。

《其の二 松井正人》

採集とは記録を作る事なり。県外へは行かない。普通種でも、ボロでも、たとえ羽だけでも、記録は記録。メッシュを潰す事に生き甲斐を感じる。

《其の三 指田春喜》

採集は網に限る。採卵、フンツ！採幼、材割、崖崩し、フンツ！フンツ！フンツ！採集とは、飛び回るヤツを

網で採る事を言う。虫の動きは速ければ速い程おもしろい。

例会の記録

四月一日(金)城南管工二階にて八時より開催。

「セミの記録を増やそう」と徳本 洋氏から呼び掛けがあり、セミの声を覚えるために、第一回セミの鳴声を聞く会が催された。ところが、肝心のハルゼミ三種は一種しか録音が見つからず、物足りないものとなった。そこで第二回を目指して、録音するなり、録音されたものを捜す事となった。

その他、応動昆に参加した江崎・高田の両氏の話、近刊の「金沢のさかな」、流行りのカマキリモドキ、徳本氏も飲み込んだアカネプロジェクト、キデイーランドのウジ入りキャンディー、マルコガタノはマルデコガタノゲンゴロウ、等々、賑やかだった。参加は、小幡、江崎、中西、下田、徳本、松井、井村、田辺の八人。

会員の動き・しゃげの動き

ズボラ飼育はうまくいくか
井村会長、何処から手に入れたか人工飼料でカミキリを飼っている。タッパーに幼虫とこの飼料をパラパラと入れただけで飼え、生木食いには湿らしたティッシュを一緒に入れるだけ。はたして成虫は羽化するのか。

マルデコガタノゲンゴロウ
「福井県でシャープやマルコガタノが採れる」と勝手に思い込んだ松井氏は、井村、上田の両氏、更には名古屋の野中氏をも巻き込んで、金沢と名古屋の両方から攻める大胆な作戦を立てた。決行は小雨もパラつく三月二十日。早過ぎるかと思われたが、イモリであふれんばかりの狭い水路に網を入れると、すぐさま

ゲンゴロウが入った。ところがそれ以後ピタリと何にも入らない。昼飯を食べ転戦すると、小振りのゲンゴロウが入った。マルコガタノがネットの底でうごめいてる。取り出して、汚れを拭ったが落ちない。マルデコガタノただのクロゲンだった。

にぎやかな山菜採り
井沢、嵯峨井の両氏、山中でギフを採っていると、雑木林の中からガサゴソと音が聞こえてきた。このシーズン山菜採りも大勢入山しているが、山菜採りは自分のありかを知らせないために静かに歩く。ところが、この山菜採りは素人なのか、ガサツ、バキツ、ボキツ等と、にぎやかな音をたてている。そろそろ顔を出す頃かと声をかければ、途端

に音は猛スピードで遠ざかっていった。次に二人が見たものは、斜面を駆け上がるクマの姿だった。

このシーズン、クマと遭遇する事が多く、白峰の国道縁で重傷を負った人もいる。最善の策は、クマに出会わない事で、にぎやかな採集人であれば良い。

ゲンゴロウが歩いている
ゲンゴロウ熱が出てきた生田氏、ギフ採集もそこそこに池に浸かったりしている。頭の中ではいつもゲンゴロウが泳いでいるらしいが、近頃はゲンゴロウが歩いていたり、氏の講義を聞いていたりする。最初はビックリしたが、気を落ち着けて見直すと高田ゲンゴロウダマシだった。それからというものの、採集に出かける時はいつの間にかゲンゴロウダマシも車に乗っている。

悲惨、井村氏八重山に散る
家族サービス、ゲンゴロウ、カミキリ等々、二足も三足も

翔 NO.108

1994年6月1日発行

百万石蝶談会

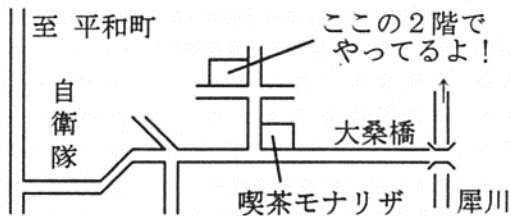
金沢市大場町東871-15 松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月の第1金曜日8時から
TEL参加もOKです(0762-44-3318)



目 次 (108号)

高田 兼太：カマキリモドキ(<i>Eumantispa harmandi</i> Navas)および ヒメカマキリモドキ(<i>Mantispa japonica</i> MacLachlan)の観察	… 1
江崎功二郎：昆虫用語の基礎知識《過変態》	… 3
八神 徳彦：奥能登の甲虫リスト	… 4
松井 正人：兼六園のギフチョウ	… 7
井村 正行：石川県のカミキリムシ科(その15)	… 9
松井 正人：オオヒカゲの食草を追加	… 12
源 五郎：酒を飲みながら思いめぐらす事	… 12
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	… 14